

# 鶴だより

釧路市動物園 ふれあい主幹  
松本 文雄



## タンチョウのヒナの保護

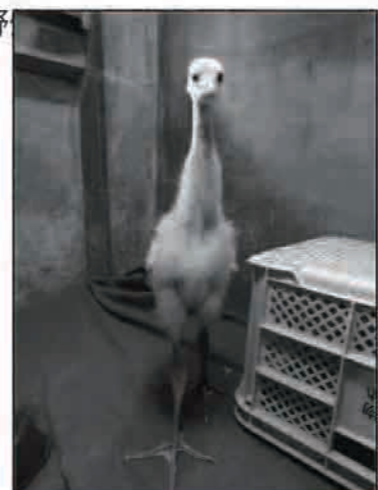
6月10日に動物園近くの施設から電話がありました。「タンチョウのヒナが玄関先に来ています！」まさかと思いながら、現場に行くと、確かにタンチョウのヒナでした。生後3週間から1月くらいでしょうか。立ち上がった高さは40-50センチほどですが、しっかりと歩けます。どこから歩いてきたのでしょうか？ とりあえず、動物園で保護して、ヒナを飼育することにしました。野鳥を恐れ、人が与えた餌を食べないことがあります。今回のヒナは、最初のうちは怖がって、突いたり、騒いだりしましたが、幸いこちらが差し出した餌をなんとか食べてくれました。これで先ずは一安心。

次は親探しです。あまり時間を置くと、親はヒナを忘れてしまうかもしれません。かつて牧場で保護されたヒナを一週間後に親に戻したことがありました。一週間ぐらいを限度と考え、親を探しました。近くにヒナを孵したつがいがいることは分かっていたのですが、どこにも表れません。何日も探しましたが、見つけることができず、戻すことをあきらめ、飼育を継続することにしました。

現在ではヒナを阿寒国際ツルセンターに移して、人工育雛を行っています。ヒナは人に恐れることもなく、差し出した餌は食べますが、あまり人についてくるようなこともなく、なついてはいないようです。この時期のヒナは日々成長するので、たくさん食べさせることと、担当者は付きっきりで、餌を食べさせたり、休まず歩かせたりするようにしています。今後しばらくはツルセンターで飼育する予定です。

なお、春先に野生動物の仔やヒナが「はぐれている」として保護されることがありますが、実際は近くに親がいて、人がいるために様子をうかがっていることが多いです。そのまま立ち去るか、近くの茂みに隠して立ち去るようにしてください。

今回も親に戻すことを最後まで検討しました。また、野生のヒナや幼い仔を人が育てるのは非常に難しく、保護しても多くの場合、うまく育ちません。ヒナを見つけても拾ったりしないようにしてください。



保護されたヒナ(保護日当日6月12日)



1か月後、7月12日の同ヒナ

## タンチョウの耳は地獄耳？

釧路市動物園 ツル担当主査  
吉野 智生



毎度唐突ながら、生き物には顔があります。顔にある主要なパーツは目、鼻、口、そして耳がありますね。タンチョウの顔にはまず大きな嘴、次に目があります。鼻は嘴に穴が開いているのでなんとなくわかりますが、では耳は？ 人間では顔の横に耳がついていますが、タンチョウの耳はどこにあるのでしょうか。

人間や犬猫などにある耳、正確には耳介(じかい)と呼びますが、これは鳥類にはありません。え、シマフクロウはいいのかって？ あれは羽角(うかく)という羽の束なので、耳とは全く別物です。鳥類に耳介がないのは、一説には空を飛ぶのに邪魔だからだと言われます。体に出っ張りがあると、その分空気抵抗が増えて余計なエネルギーが必要になります。したがって鳥類の耳は単なる穴として、目の後ろ、少し下側にあります。鳥類は頭部も羽におおわれていますが、耳の周りだけ耳羽(じう)と呼ばれる少し硬い羽が生えています。タンチョウの場合、成鳥ではわかりませんが、ヒナのうちは周りと同じ色が違うのと、まだ羽が薄いのでなんとなくわかりますし、強い風が吹くとうっすらと穴が見えることもあります。ただわかりにくいので、機会があったらダチョウやエミューなどの大型の鳥で探してみてください。

少し細かい話をしましょう。いわゆる耳の穴を外耳道(がいじどう)と呼びます。音、つまり空気の振動はここで増幅されて、奥にある鼓膜(こまく)に伝わります。鼓膜の内側は中耳(ちゅうじ)で、そこにある耳小骨(じしょうこつ)がさらに振動を増幅します。この振動は内耳(ないじ)の蝸牛(かぎゅう)を満たすリンパ液に伝わり、蝸牛にある感覚細胞が振動を電気信号に変えて蝸牛神経を通じて脳に伝え、そこで初めて音として認識されるわけです。これは哺乳類も鳥類も変わりません。ただ、哺乳類の耳小骨は3つですが鳥類では1つだけで、哺乳類の鼓膜は下顎の関節から発達し、鳥類では上顎の関節から発達したという違いがあります。つまり、聴覚は必要に応じてそれぞれ独自に進化させてきたものなのです。

人間はおよそ20ヘルツから20000ヘルツまでの範囲の音を聴くことができます。では鳥類はというと、種によってかなり違いがありますが、一般的にはだいたい200から8000ヘルツの範囲で、実は人間の方が低音から高音まで幅広く聴くことができます。ただし感度は別で、例えば鳥類の鼓膜は人間の約1/3の薄さなので、小さな音でも気づくことができます。人間がこそこそ動いているつもりでも、タンチョウに気付かれていることがあるのは、そのせいかもしれません。



矢印の先が外耳道の位置